

男子部中等科・高等科

「演劇を学ぶ 演劇で学ぶ」

濱野 稔子

このチームは2年前の学業報告会でも演劇に携わったメンバーが4名おり、あらたな表現の方日を模索した。今回は小学校の教科書に載っている物語に焦点をあてて、オムニバスになりながらも全体を通して伝えたいものは何かを考えながら作品に仕上げていった。本番に向けて、候補作品選定、シナリオ執筆、身体訓練、発声練習、舞台稽古、演出など、異学年で集まった多才な生徒たちが意欲的に取り組んだ2週間であった。

I. はじめに

今回は、オリジナルなのか、既存の物語を脚色するのか、古典なのか現代なのかなど、そのような条件を設けず、自由にアイデアを出し、舞台作品作りをすることとなった。この目的に共感して集まったのは高等科2年が4名、1年が1名、中等科1年が1名の計6名の生徒だった。生徒が主体となり、さまざまな形の学びを体現していった。

II. 活動記録



【身体訓練】

学校内ランニング、腕立て伏せ、腹筋、ストレッチ、発声練習、滑舌練習、早口言葉、台詞

【シチュエーション演技】

テーマを設定し（たとえば文化祭の高校など）その場で自分のキャラクターを考え、アドリブで台詞を言いながら、作品を創っていく。

【台詞なし演技】

出題者がメンバーに簡単なキャラクター設定と状

況を説明し、メンバーをそれになりきって演技をする。演技のときに台詞はいわず、意味不明の音声のみを表現することにし、表情や体のアクションで演技をする。観ている人が、どのような物語が演じられているのかを当てる。

【物語の選定】

今回も既存の物語を表現することに決める。

小学校の教科書に載っている有名な物語を選ぶことにし、初等部より、教科書をお借りし、物語を選定する。

【脚本化】

物語の場面を抜粋し、脚本化する。



【舞台稽古】

本読みと、台詞を覚えたあとの立ち稽古

III. ふりかえり

<良かった点>

・今回も生徒が主体的に活動を進めた。物語の選定、脚本はすべて生徒が行なった。

・中等科生は1年生が1名だけであったが高校生たちともよくコミュニケーションし、学びあう場面が多くあった。お互いの良さを認め合って、出し合つて時にはカバーし合った。

<改善点>

・本番の舞台では、他チームと同じく発表時間が10分という時間だったため、その時間で4つの物語をオムニバスで入れながらも完成された表現としての舞台作品にせねばならず、大変であった。本来はもう少し時間を増やして場面も増やしたものにしたいため、生徒たちも苦勞と改善を重ねた。長い作品の一部を演じるという手法もあるのかもしれないが、次回も同じ時間条件だった際には、どのような工夫がさらにできるのかを考えたい。

IV. おわりに

この活動に関わった生徒のほとんどが、その後の男子部演劇同好会の活動にも参加し、その後、他校と一緒に演劇祭を開催するに至った。

学びが発展し、彼らのチャレンジを後押ししたことを嬉しく思う。